

校長室だより

第7号

発行日 2007年 2月14日

発行者 斎藤 滋

「学校の常識は社会の非常識？」

大手菓子メーカーの不祥事が明るみになったときに、ラジオである人が「会社の常識は社会の常識ではない」と言っていました。その言葉を耳にした瞬間、私はその菓子メーカーのことより「学校はどうなのだろう」と思い始め、にわかに不安な気持ちに襲われました。なぜかというと、これは普段から感じていたことだったからに他なりません。学校という場は、子ども中心の場であるために、いろいろな場面で子どもたちの成長の段階を考慮した指導が求められます。大人と同じことを12歳の子どもに求めるることはできませんし、ましてや6歳の子どもに求めることもできません。このように学校が一般社会と異なる場であることは理解していただけていると思います。

ところが、子どもたちが社会の一員として生活する場はどんどん広がってきています。そして、最近は「子どもだから・・・」ということで許されることが少なくなってきたような気がします。この学校のように広範囲から子どもたちが登校してくる場合には、本来小学生の大半は学校までは保護者や友だちと一緒に歩いて通学することが普通のことであるはずなのに、大人と同じように電車やバスなどの交通機関を利用する事になります。子どもなりにその場のルールを守ろうとしても、社会人と子どもではその意識に大きな違いもあるでしょう。

また、社会の仕組みが大人中心のものになっているかと思えば、実は子どもが中心であるような場面が意外に多いこともあります。例えば、年末年始になると新しいゲーム機が続々と売り出されることも、クリスマスプレゼントやお年玉を意識したものでしょう。子どもたちは大人（企業）の都合で限られた場面ではまるで社会の主人公のような扱いをされているのかもしれません。

いろいろな意味で、社会のルールが十分に理解できていない子どもが大人と同じような環境におかれることは、子どもにとっても負担かもしれません。学校関係者、保護者とは違った目で子どもたちを見ている人が多いことを私たちは忘れてはいけないと思います。

学校内でも同じようなことが起こることがあります。子どもの成長過程を理解しつつも、何か問題が起きたときに大人の論理での納得・解決を望む保護者の声が聞こえてくることが増えています。学校としては問題を曖昧にしたり、先送りしたりしようとするのではなく、その解決には子どもの成長を待たなければならないことがあるということを理解してもらおうとするのですが、そこがうまくご理解いただけないことがあります。また、子ども同士のトラブルに保護者が関わり、保護者同士もお互いを非難し合うようなこともあります。その場合、問題が必要以上に大事にならないように教員はどちらの保護者の言い分もよく聞き両者になんとか納得してもらえるように努力するのですが、なかなかうまく調整できないこともあります。子どものためによかれと見てこのような方法をとるのですが、場合によっては、保護者同士がしっかりと話し合うことが問題の解決のために必要ではないかと考えことがあります。

「読書・・・」

「読書をしない子は日常生活の会話とテレビしか言葉を覚える水源がないので、勉強、つまり学問で使う言葉を覚える機会がない・・・これは親野智可等（ペンネーム）氏の著書である『「親力」で決まる』の中の一文です。表現の良し悪しは別にして、非常にストレートに読書の必要性が伝わってきます。読書をすることによって多くのことを学ぶことは誰もが分かっていることであり、言葉を覚えるためだけの手段ではないことも承知しています。しかし、読書が好きな子とそうでない子では、話し方、内容、言葉の遣い方に大きな違いが見られるのも確かです。この違いが人間としての本質に関わるものかどうかまでは分かりません。例えば、本を読まない子は優しくないということはありませんし、友だち付き合いが下手であるということもあります。

さて、先日個人面談がありましたが、その中で、習い事や塾のことが話題になったという報告がありました。「学校だけの勉強で大丈夫でしょうか」「塾に行く必要はありませんか」と聞かれた教員は、その子が学校で行っている学習がきちんと理解できていない、課題への取り組みもよい場合は、「大丈夫です」と答え、さらに、今しっかり身につけておかなければならぬ力として、読む力、文章表現の力をあげることがあると思います。これは全員が身につけなければならない力でもあり、学校でも力を入れていきたいこともあります。しかしながら、教員のそういう言い方に満足できない保護者もいます。皆さんはどう思われるでしょうか。

・・・グループ討論会・・・

これまで何回か校長室で保護者の皆さんとの話し合いの時間を持たせていただきました。私が中心になって話すというよりも、異学年の保護者同士が意見交換をする場として使っていただいているように感じます。そのようなお話を聞いていて、私も勉強になることがあります。お時間のある方は一度参加してみませんか。

（実施日）2月は20日・27日、3月は13日の午前10時半から12時までを予定しています。

・・・講演会のご案内・・・

2月17日（土）の講演会にできるだけ多くの保護者の皆さんに参加していただきたいと考えてあります。これからの子どもとの接し方のヒントが講演の中でいくつか見つかるのではないかと思います。